

令和6年度

租税教育実践発表会資料



石巻市立蛇田小学校

教諭 高橋 慶太

1 はじめに

明治6年6月1日に開校した蛇田小学校は、現在児童数735人と石巻市で一番児童数の多い学校である。学区内には国道45号線や県道16号線蛇田バイパスが通り、JR仙石線蛇田駅や三陸自動車道石巻河南I.Cがある。大型商業施設を中心に店舗も多く、あゆみ野、のぞみ野、恵み野といった新興住宅地が広がり、石巻合同庁舎や公園などの公共施設も数多くある。

本校は、「豊かに学び、共に伸びようとする子どもの育成」を学校目標として掲げ、目指す児童像を「思いやりのある子ども」「生き生きと学ぶ子ども」「健康で明るい子ども」としている。学校と家庭と地域が連携しながら、「児童が明日も行きたくなる学校づくり」を目指し、教育活動を進めている。

租税に関する学習は、政治と私たちの生活との関係性や自分たちの権利と義務について学び、税金の働きについて理解する単元として、6年生の社会科の学習の政治・国際編で扱っている。本単元の目標は私たちの税金がどのように集められ、どのような目的で使われているのかを知り、税に対する理解を深めることであり、学習を通して児童に身近な税金について考えさせ、政治についての興味関心を高めることができる。

2 児童の実態

本校の6学年の児童は、テレビのニュース等の情報から「消費税10%」「増税・減税」など税に関する言葉をいくつか知っている。税金が私たちの暮らしのために使われていることも知っている一方で、具体的に何に使われているかまでは十分に理解していない。また、消費税以外の税の徴収の方法を知っている児童はほとんどいなかった。さらに「税金を取られる」という感覚があり、税金に対して負のイメージを持っている児童も少なくない。

以上のことから、この学習を通して、税に対する基礎的な知識を学び、納税者としての意識を高めていきたい。

3 指導に当たって

児童の実態を踏まえ次の4つの手立てを講じていく。

① 自分たちの暮らしと税金との関わりについて気付かせる。

憲法で定められている自分たちの権利を学び、生活の安定と向上のための公共的事業の重要性を知ることで、その財源になる税金が必要になることを理解させる。

② 税金に対しての正しい知識の定着

集められた税金が何に使われているのかを調べ、お金の流れを確認しながら、税金についての基礎的な知識の定着を図る。

③ 学びを深めるためのゲスト・ティーチャーの活用

税務署からゲスト・ティーチャーを招き、租税教室を行うことで、消費税以外の税の種類や具体的な税率などについて知ること、学びを深める。

④ 他の単元や教科と関連付けた指導

歴史の学習の中で、税が導入された経緯を知り、時代の流れとともに目的や使われ方が大きく変化してきたことに気付かせる。また、図工の学習で、「税に関する絵はがきコンクール」に取り組むことで、税を大切にする意識を養う。

4 指導計画

(2時間扱い)

時 間		学習内容	指導上の留意点	評価規準
事前学習		動画の視聴	○アニメ動画を視聴し、税金の働きについて知る。 【手立て①】	
1	授業	実践授業Ⅰ 「私たちの願いを実現する政治」 指導者：各担任	○私たちの権利と義務について理解した上で、公共事業や社会保障の必要性を知る。 ○税の集め方や使われ方など基礎的な税金の流れを学ぶ。 【手立て②】	○税金は私たちの生活の安定のために必要なものであることを理解している。 (知識・理解)
2	租税教室	実践授業Ⅱ 「租税教室」 ゲストティーチャー：石巻税務署職員	○税金についての講話を聞き、納税が町を支えていることを具体的に知る。 【手立て③】	○税金と私たちの暮らしが密接に関わっていることを理解している。 (知識・理解)
事後学習		税に関する絵はがきコンクール 日本の歴史から見た税金について学ぶ	○授業で学んで感じたことを絵に表す。 ○歴史を学ぶ中で、昔と現代の税の違いに気付かせる。 【手立て④】	

5 実践

(1) 自分たちの暮らしと税金との関わりについて気付かせる。

「マリンとヤマトの不思議な日曜日」を事前学習として視聴した。短い動画の中で、「もし税金がなかったら」という主人公の気持ちに共感しながら、集中して動画を見る児童が多かった。税金がない世界での混乱を見て、児童の税金のイメージが大きく変化した。「税金は必要なもので、何に使われているのかを知りたい。」「どのように集めているのかを知りたい。」といった感想を聞くことができ、税金が自分たちの生活を支えているということを実感させることができた。

(2) 税金に対しての正しい知識の定着

社会科の学習で、基本的人権の尊重における国民の権利について再確認し、その権利を国民全員が平等に受けるために税金が使われており、納税は国民の義務であることを授業で取り上げた。税金が、具体的に何に使われているのか自分たちで調べ、学校の運営にも使われていること、近くの公園の建設や維持、震災復興にもたくさんの税金が使われていることを理解できた。調べ学習を通して、児童は一層税金の重要性に気付くことができた。

(3) 学びを深めるためのゲスト・ティーチャーの活用

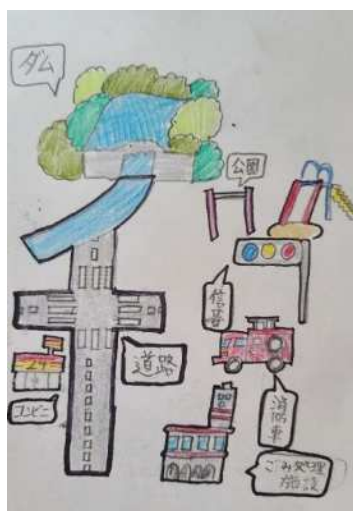
税務署の職員の方から所得税や自動車税、法人税など様々な税があることを教えていただいた。消費税以外にたくさんの税があることに児童は驚き、興味・関心を高めていた。また、軽減税率の説明では、物によって税が違うことを初めて知った児童が多く、学びを深めていた。税收の話では、約70兆円ものお金が集められたことを教えていただいた。最後に一億円レプリカに触れさせていただき、児童はお金の重みと大切さを改めて実感していた。租税教室を通して、学びが大きく広がり、税についての興味・関心を高めることができた。



【租税教室の様子】

(4) 他の単元や教科と関連付けた指導

飛鳥時代から奈良時代にかけての税、租・調・庸の学習では、現代の税金との違いを比べることで、児童の興味・関心を高めることができた。今後も兵役や検地による年貢、地租改正といったように歴史の学習を通して税に関する学習に継続して取り組んでいく。また、図工の学習で行った税に関する絵はがき作りでは、どの児童も税に対する思いを一生懸命に表現していた。



【税に関する絵はがき】

6 実践を終えて

今年度の租税教育は、社会科の学習だけでなく、動画を中心とした事前学習やゲスト・ティーチャーを招いての「租税教室」、他教科と関連付けた指導など、多面的な手立てで計画的に学習活動を展開することができた。どの学習も効果的で、児童の税に関する興味・関心が高まり、税に関する基礎的な知識が定着し、学びを深めることができた。また、税に対する負のイメージを払拭することもできた。

しかし、小学6年生ということで納税者としての意識はまだ低く、「税金は大人が納めているもの」と思っている児童も多い。そこで、今後も様々な学習を通して、税や行政についての知識・理解を深めさせ、「国民の義務として税金をきちんと納めることで、権利として行政サービスを受けることができる」という意識を高めていく必要がある。